



平成23年度第2回 研修会報告

平成24年2月23日(木)、千葉市生涯学習センターの研修室を会場に、30名の参加を得て今年度第2回の研修会を開催しました。

今回の研修会では、館種を超えた図書館活動の連携について、埼玉県立浦和図書館と市川市中央図書館から講師をお招きしての講演でした。

日程・内容は下記のとおりです。

- | | |
|-------|--|
| ○ 講演Ⅰ | 13:35～14:40 |
| ・テーマ | 「埼玉県における図書館連携活動の状況について」 |
| ・講師 | <small>たみもと けいこ</small> 民本圭子氏 (埼玉県立浦和図書館 企画・システム担当 主席司書主幹) |
| ○ 講演Ⅱ | 15:00～16:00 |
| ・テーマ | 「市川市中央図書館における大学等との連携」 － (その2) 近年の進展と課題の考察 － |
| ・講師 | <small>かのう だ やす ひこ</small> 叶多泰彦氏 (市川市中央図書館 資料情報サービスグループ 副主幹) |

研修会報告 1

「埼玉県における図書館連携活動の状況について」の講演を聞いて

放射線医学総合研究所 図書室 耳塚 良史

平成23年度第2回研修会において『埼玉県における図書館連携活動の状況について』と題して、埼玉県立浦和図書館の民本圭子氏よりご講演頂きました。

講師の民本氏は埼玉県立浦和図書館において企画・システムを担当されている傍ら、埼玉県図書館協会事務局にも所属され、館種を超えたネットワークづくりや連携に尽力されています。本講演の概要及び感想を以下に述べます。

まず、埼玉県内図書館のネットワークとして、県立図書館が主体となって埼玉県全体の図書館協力関係を支えている物流ネットワーク及び、情報ネットワークについての説明がありました。公共図書館や図書館類縁機関を協力車・連絡車と呼ばれる車両で巡回し、現物の相互貸借を行う物流ネットワークは、昭和48年7月からの試行期間を経て、昭和51年4月に本格的運行を開始しました。拠点となる県立図書館が複数あったことと、県南西部を中心に市町村立図書館の整備が順調に進んだこともあり、また、



講演中の民本氏

平地が多く物流に大きな困難を伴わなかったため、物流ネットワークは順調な拡大・発展を遂げることができたとのことです。他館との連携状況として、近年の相互貸借件数が示され、毎年一定の利用数があることから、図書館連携における利用者サービスとして重要なコンテンツとなっていることが確認できました。私の勤務している図書室では現物の相互貸借は難しい現状なのですが、図書館連携においてこのシステムは非常に有意義なものだと思います。

一方情報ネットワークについては、電算化の遅れもありながら、昭和55年11月に運営体制の整備と総合目録の作成に着手し、昭和60年3月に『埼玉県立図書館合同蔵書目録』を刊行し、平成11年4月には『埼玉版ISBN総合目録』の運用を開始、平成18年3月には『埼玉県内公立図書館等横断検索システム』が稼働しました。情報ネットワークの整備が進む中で、平成17年3月28日に埼玉大学図書館と、平成18年3月27日には埼玉県立大学情報センターと相互協力に関する協定を締結し、お互いの活動に関する幅広い連携協力、所蔵する情報資源の有効な相互利用などの相互協力を努めることとなりました。情報ネットワークの整備とともに他館との連携を深めていったことは参考にすべき成果だと感じました。

次に埼玉県図書館協会の取組ということで、同協会の概要と館種を超えたイベントへの取組を紹介していただきました。

埼玉県図書館協会は昭和24年に発足し、事務局は講師の民本氏が所属されている埼玉県立浦和図書館に置かれています。加盟施設は公共図書館等63自治体・8機関、小中学校図書館1,195校、高等学校図書館179校、大学図書館17館です。また、関連団体は埼玉県学校図書館協議会、埼玉県高等学校図書館研究会、埼玉県大学図書館・短期大学図書館協議会です。埼玉県図書館協会は、県内の公共図書館の振興を図り、県内各館種(公共図書館、学校図書館、大学図書館等)の図書館と連携し、県内の図書館活動全体の進展を図る目的で設置されました。主な活動として、(1)総会、(2)『図書館と県民のつどい埼玉』(県教育委員会と共催)、(3)学校図書館研究大会、(4)館長・公共図書館職員対象研修等を開催しています。

(2)の『図書館と県民のつどい埼玉』は「館種を超えて県民を巻き込んだ大会を開催したい」との埼玉県図書館協会長の発案により実現した企画で、平成23年度で第5回目を迎え、記念講演、自館のオリジナル色の強い蔵書の展示、製本の実技指導、読書活動交流会などが行われています。このイベントでは、さまざまな館種の職員同士が顔を合わせて準備をすることによって、密な連

携ができ、その結果、人と人のネットワークづくりに役立ったとのこと。回を追うごとに、地域住民のニーズにこたえる形に洗練されていった印象のある本イベントは、やはり職員同士の連携がより密になっていった結果だと感じました。

講師の民本氏は、館種を超えた人と人のネットワークづくりが非常に重要であり、平成 22 年 3 月に大学と県との包括協定が結ばれたことを追い風として、より一層の人事交流を図りたいとお考えを示され、講演を締めくくられました。

市民を巻き込んでの活動が少ない千葉市図書館情報ネットワーク協議会にとって、地域住民とふれあい、新たな図書館サービスの形を示した『図書館と県民のつどい埼玉』は手本にすべきイベントだと考えます。本協議会も、公共図書館や大学、専門図書館等の多様な館種で構成された団体です。埼玉県図書館協会のような活動を本協議会としても行っていければ、図書館サービスの可能性もさらに広がるのではないのでしょうか。

おわりに、遠方よりお越しくださり貴重なご講演をしていただいた民本氏には心よりお礼申し上げます。

研修会報告 2

「市川市中央図書館における大学等との連携」から本協議会の方向性を考える

敬愛大学・千葉敬愛短期大学メディアセンター 安岡 貴美代

館種を越えた相互協力を目指し、千葉市図書館情報ネットワーク協議会は平成 6 年にスタートした。本協議会の目的のひとつとして当初物流を前提とした運営が考えられていたが、予算との関係もあり物流巡回が足踏み状態になっていることから、今回の研修会は館種を越えた協力体制の仕組みを作っている埼玉県内図書館ネットワークと市川市中央図書館の活動についての事例報告となった。市川市中央図書館の叶多泰彦（かのうたやすひこ）氏の「市川市中央図書館における大学等との連携」の中で、特に学校図書館、大学図書館との連携については具体例に添った現状報告があり、大学図書館に所属する者として参考にすべき点が多々あった。

市川市中央図書館は基本コンセプト「3 つの柱」を掲げ、学校とのネットワークはその中のひとつとして位置づけられている。市川市立図書館と学校図書館との連携は現在も高い評価を得ており、調べ学習のサポート的役割を果たし全国的にも知られている。大学図書館との連携につい



講演中の叶多氏

ても、千葉商科大学との協力体制を充実させ、和洋女子大学や昭和学院短期大学との相互協力も視野に入れた計画となっているとの報告があった。

千葉商科大学との連携は 1997 年 4 月より開始され、2005 年には学内に市立図書館のオンライン端末を設置し、市立図書館の予約資料の受取が可能になるシステムを構築している。また、市立図書館が仲介する形で市民に大学図書館の利用券発行、その他大学図書館内に図書返却ポストを設置し、図書館

の物流便が巡回する等のサービスが展開されている。

同大学近隣住民にとっては市立図書館まで足を運ばなくても利用でき、一方大学にとっても学生や教職員が市立図書館の資料の利用ができ、地域への貢献度が具体的に分かり、大学の存在 PR ともなっている等、双方にメリットが生まれている。

大学の地域貢献度という点では、市川市北部における市立図書館のサービスが手薄になっていることから、千葉商科大学の立地条件も加味され利用実績は年々増加している。和洋女子大学の場合は女子大学ということもあり地域開放へは踏み込みにくい面があるが、官学連携体制の下、「健康・保健・福祉分野」「文化・国際分野」「生涯学習分野」等包括的な協力協定を結んでいる。

大学を巡る昨今の状況から、少子化・大学全入時代、大学の経営環境・経営戦略、大学評価項目のひとつである社会貢献、大学図書館の活動の変化、教育・研究機関としての位置づけ等を取り上げ、教育基本法や学校教育法に謳われている大学図書館の役割という観点から、連携の必要性についても触れられた。大学の目的実現達成のためには教育研究の成果を広く社会に提供し、社会の発展に寄与すること等、教育法関連の条項を見るに連携の必要性を再認識した次第である。

今後の連携についての展望として、理由（なぜ）、対象（どこと）、内容（なにを）、方法（どのように）等を踏まえ館種を越えたネットワーク組織の重要性が強調された。本協議会の課題となっている物流の予算について市川市の場合は、学校図書館支援センター事業という位置づけで図書館の予算ではなく基本的には教育委員会・教育センターの予算になるとのことであった。また、大学図書館との連携において、物流巡回の予算を計上しても利用者数という点から費用対効果はどのような状況であるのかとの質問については、駅南図書館の運営が始まったこともあり数値的には減少しているが、前述のとおり市川市北部在住の方には必要かつ重要な知の拠点となっていることは明らかである。

今回の研修会に参加し、館種を越えたネットワークの構築には、庁内の連携や他館との連携、例えば県立図書館や博物館、文書館、教育センター等を含め、行政とのかかわりをいかに進めるか、バックアップ体制をどのようにするのか等が今後の課題と思われ、市川市の取り組みも参考にしながら本協議会の運営に反映できればと感じた次第です。

~~~~~

◇千葉市図書館情報ネットワーク協議会

Network 通信 No.36

2012年3月29日

発行：千葉市図書館情報ネットワーク協議会

事務局：千葉市中央図書館内

〒260-0045 千葉市中央区弁天3-7-7

Tel 043-287-4081

Fax 043-287-4074